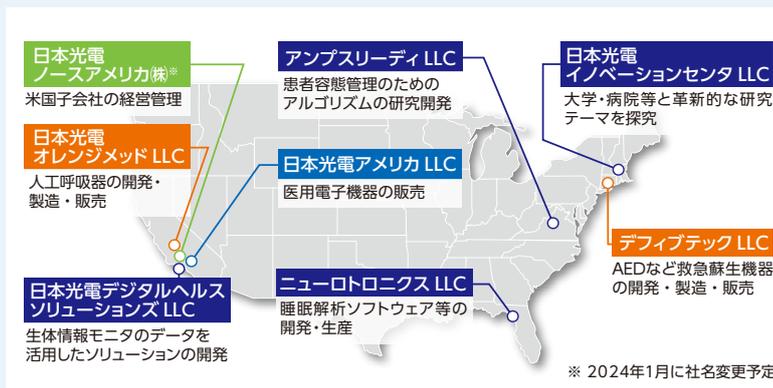


NEW 米国子会社を再編し、持株会社の社名変更を決定

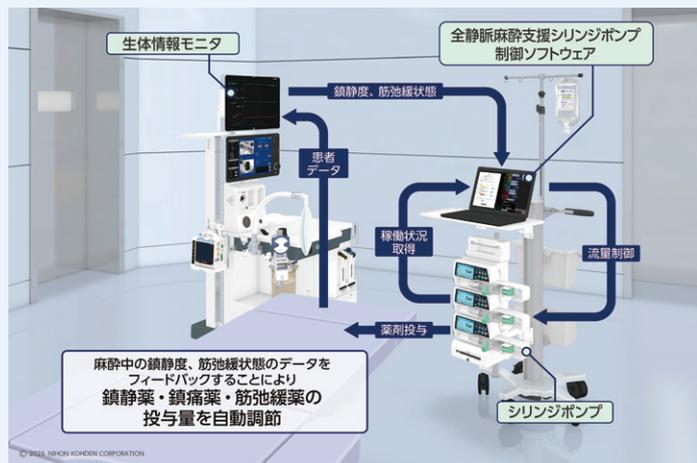
2023年4月に米国子会社を再編し持株会社体制に移行しましたが、この度、持株会社の名称を日本光電ノースアメリカ(株)に変更することを決定しました。人工呼吸器事業は新設会社である日本光電オレンジメッド LLCに承継し、日本光電ノースアメリカ(株)は米国子会社の経営管理に特化します。これにより、現地開発・生産・販売機能を活かした競争力の一層の強化、シナジー創出を実現し、米国事業のさらなる拡大を目指すとともに、ガバナンスの強化および運営効率の向上を図ります。



NEW 全静脈麻酔支援シリンジポンプ制御ソフトウェア ROP-1680 AsisTIVA を発売

AsisTIVA(アシスティヴァ)は、手術中の静脈麻酔薬による全身麻酔(TIVA: Total Intravenous Anesthesia)において、生体情報モニタから取得した患者さんのバイタルデータをもとにシリンジポンプ(テルモ(株)製)からの麻酔薬投与を自動調節するソフトウェアです。日本初のロボット麻酔システムの一部として、2022年9月にプログラム医療機器(SaMD: Software as a Medical Device)の承認を取得し、2023年7月に発売しました。また、10月には2023年度グッドデザイン賞を受賞しました。昨今、医師の働き方改革が課題となっていますが、AsisTIVAの活用により、全国的に不足している麻酔科医の業務負荷軽減や手術中の安全の向上を期待しています。

AsisTIVA



開発者の声 質の高い麻酔の未来に向けた AsisTIVAの革新的な役割

「ロボット麻酔システム」のアイデアは、後に私たちと共同研究を行うことになる、ある麻酔科の先生によって、実に四半世紀も前の1998年に着想されました。日本における全身麻酔手術は増加傾向にありますが、手術は外科医だけでは行うことができず麻酔科医の存在が欠かせません。加えて、不足している麻酔科医の多くは都市圏に偏在しており、地方圏で働く麻酔科医は過酷な業務環境下でミスが許されない状況にあります。このような状況を打開するため、10年近く共同研究・臨床試験を行い、25年越しのアイデアを具現化し、AsisTIVAを世に送り出すことができました。



技術開発本部
生体モニタ技術開発部
呼吸・麻酔機器部 フェロー
荻野 芳弘

日本は「手術支援ロボット」の分野では米国に遅れを取っていますが、「麻酔支援ロボット」は日本初の試みであり、現時点では世界中で同様の製品は確認されていません。

AsisTIVAにより、安全な麻酔を望むすべての患者さんに、都市圏、地方圏に関わらず、また将来的には新興国市場や紛争地域においても、「均てん化」された、質の高い麻酔をお届けできるよう、取り組みを続けていきます。

日本光電コーポレートサイトをリニューアル

2023年7月、日本光電コーポレートサイトをリニューアルしました。サイト全体のデザインを一新するとともに、スマートフォン等での表示にも対応しました。東証に提出している決算短信等の適時開示資料の自動連携も実現しています。今後もより一層の内容充実にも努めますので、是非ご覧ください。

<https://www.nihonkohden.co.jp/>



日本光電レポート2023(統合報告書)を発行

コンプライアンス、リスクマネジメント、品質、調達、人権、環境の各担当役員からのメッセージを新たに掲載し、日本光電の価値創造に向けたマネジメント層の思いをご紹介します。中期経営計画で特定した12個のサステナビリティ重要課題(マテリアリティ)とKPI(重要経営指標)については、2年間の実績と進捗率を掲載しました。

<https://www.nihonkohden.co.jp/ir/library/ar/main/0/teaserItems3/01/linkList/0/link/NKreport2023.pdf>

